

進路指導部通信

県立高等特別支援学校
進路指導部
2015. 3. 5 NO. 9

文化祭を終え、2月に入ったと思っていたら、あっという間に3月を迎えました。1年生は2月10日に有馬リネンサプライを訪問し、見学させて頂きました。1学期にも校外実習で様々な会社を見学しましたが、見え方、感じ方も変わったのではないのでしょうか。実際に働いてみなければ、仕事の大変さを理解することは難しいことですが、見学から学ぶことも多くあったと思います。2年生は就労に向けて本格的に動き始めました。本人、保護者、進路指導部、担任との四者懇談会の中で、生徒たちの課題や進路の進め方を確認し合いました。その中で「健康」「生活の安定」が課題となる生徒が多くいました。「健康」というのは病気をしないということだけを言うのでしょうか。ストレスを上手に発散できるか、自分で悩みを解決する力が備わっているか、ということも含まれます。遅刻や欠席を少なくするというのは心身共に健康であることが大切です。誰かに話しをすることで悩みを解消できるかもしれませんが、好きなことをする等、余暇の活動を充実させることが大切です。「健康」と一言で言っても捉え方の幅が広いですね。卒業まであと1年です。1年しか残っていないではなく、「1年もある！」と捉え課題に向かって努力していきましょう。そして、3年生！いよいよ卒業を迎えました。おめでとうございます。4月からの生活に心配はありませんか。私もこの高等特別支援学校に来るまで4回の異動を経験しました。特に初日は期待の気持ちを上回るくらい、不安な気持ちが大きいです。その不安を打ち消していくことには勇気が必要となります。自分から話しかけてみたり、分からないことを質問したり。自分の居場所を見つけていかねばなりません。そんな世界に飛び込もうとする、3年生は「すごいな！」と感心します。新しい生活のスタートを自分でしっかり切り拓いてください。応援しています。

定着指導より

進路指導部長 鍋島 隆一

進路指導部の業務の中で「本校の看板」として重視しているものに定着指導（「期限を切らない卒業生のアフターフォロー」）があります。手前味噌ではありますが、ここまでやっているところは支援学校、地域の支援センター含めて他にはないと思います。

進路指導部の最優先の業務は3年生の進路先（結合実習先）を確保することです。実習が始まると週に2回くらいは実習先に出向いて状況の確認を行い、上手くいっていないようだと言級担任より家庭連絡をしてもらって注意を促してもらうよう依頼します。いくら本校が兵庫県全域を対象としているとはいえ、半日あれば事足ります。それだけで戻ってくるのはもったいないので余った時間をつかって半年に1回を目標に卒業生の進路先を訪問させていただくようにしています。そこにはいろんなことが起こります（起こっています）。その中の一例をご紹介します。

その卒業生は3年ほど前の卒業生で、あるスーパーで働いています。在学中の様子はというと性格は素直で真面目だが、作業面はというと決してよくできる生徒ではなく、簡単にはいかないだろうということで6月の現場実習の時から結合実習としていかせました。実習では品出し業務を担当させていただいたのですが、やはり上手く対応できず悪戦苦闘の連続でした。品出し以前に台車がまっすぐ押せない、どこに何があるか把握できない、進路担当職員が店のレイアウト図を作成して本人に渡しても持ってくるのを忘れる……。 「やはり……。ミスマッチだったか。このままいかせていいものかどうか？」とずいぶん悩んだのを覚えています。「とにかく場数を踏ませて慣れさせるしかない」と秋に3回目の4週間の実習に行かせてやっと光明が差しきて何とか内定にこぎ着けた感じで、何とか採用にはなったものの、すぐに課題解消といくわけもなく、ジョブコーチがつくといった状況でした。

その後はしばらく間隔が空いた状態となり、久々（約1年ぶり）の訪問でどのようなになっているか不安を抱えての訪問でしたが、店長「商品の場所を一番良く把握しているし、品出しのスピードも他の社員と比較しても遜色ない。私も着任間もない頃は彼によく教えてもらった。うちの貴重な戦力です。確かに接客が難しかったりする面はあるが判断に困れば必ず相談してくれるので安心感があるし、また素直に人の話を受け入れることができるのがよい」とのことでした。

この話を聞いて「これが高等特別の生きる道」と目から鱗が落ちる思いがしました。「石の上にも3年」という格言がありますが特別な資格・技能はなくとも「素直さ、真面目さ」といった土台の上に継続して取り組めば必ずや成果があるのだと改めて実感した次第です。

多くはこのような感じで卒業生達はよくやっていると思うのですが中には「お世話になってます」とあいさつをすると社員の方の表情が何か言いたげで曇った感じになる。「ちょっとこちらへ」と本人のいないところに連れていかれて「実は・・・」と重い口を開かれるようなこともあります。内容としては「見てないところで手を抜く」「人で態度を変える」「欠勤が多い」などです（ただ、こうしたことは学校在学中から垣間見えていたものであり「やっぱり」という印象となるのがほとんどですが・・・）。

冒頭でも記しましたように定着指導という業務は本来の業務ではありません。ただ、卒業生の進路先の訪問がきっかけで在校生の就労につながったこともありますし、会社の方からお聞きする話はかけがえのない財産で在校生の指導にも役立っています。結合実習の段階では得られない「働くことの奥の深さ」を学ばせていただくのに格好の機会となっています。

これからも「会社と企業のパイプ役」として卒業生の行く末を見守っていきたいと考えています。